

令和2年4月1日

本部長（理事長）メッセージ

（第2回新型コロナウイルス感染症対策本部会議）

- 本日は緊急にお集まりいただきありがとうございます。
- 今日は、学部長をはじめ枢要なメンバーが変わったこともあり、改めて新型コロナウイルス感染症対策について、大学の大きな方針について、大学運営の最高責任者である私の考えをお伝えし、皆さんと共有したいと思います。
- ご承知の通り、現在、国内では新型コロナウイルス感染者数が都市部を中心に増加し、感染経路が不明な感染者数も増加しています。熊本での感染者数は、昨日時点で、14名。先週末以来新たに5名の感染者が確認され、感染者数は増加しています。
- 皆さんにも、また学生にも、この新型コロナウイルスに対する不安や心配はあるでしょう。

昨日、皆さんの様々な意見を学長からお聞きしました。また、専門的知見を持つ保健センター長からも意見を伺いました。私も心配しております。しかし、新型コロナウイルスの危機は当分、続きます。連休明けまで休校すれば、それに対応できるようなものではありません。新しい教育の体制（システム）をなるべく早く作らなければならないと考えています。

そこで最も重要なことは、冷静にこの状況を把握・理解し、正しく恐れ、そして適切に行動・対応することです。

○ 本学では、先週 3 月 26 日に、学生及び教職員の感染防止及び安全確保のための大きな対応方針である「新型コロナウイルス感染症に対する対応方針」を決定しました。

○ この対応方針は、学校の基幹的業務である「教育」を止めるのではなく、用心に用心を重ねながら、できる限り推進するという観点から、①学生及び教職員へ感染予防対策を周知し、体調管理と自ら感染しないよう行動を変えてもらう（行動変容）こと、②新型コロナウイルスへの感染が疑われるような場合等には、学校への登校を控えること、また③学校関係者以外の方々の学内への出入りを極力抑制することで、学内で感染者等を発生させないようにすることを基本とし、取りまとめたものです。

これが第一点です。

○ 先程申しあげたとおり、先週末以降、県内の感染者数は引き続き増加しており、短期間で収束する見込みのない中、令和 2 年度が始まります。

新 4 年生には必要な教育をして卒業させる、新 1～3 年生は進級させてさらに教育する、大学には学生を教育し、彼らの未来を支えていく任務があります。

このため、オリエンテーション及び授業は予定通り実施しますが、「密閉、密集、密接」の 3 密空間を避ける、さらには長期の体制にどう移行するかについて工夫する必要があります。

○ 先ず「学生への感染防止策の周知を徹底します。」新たに学生が集まる場所

や、各棟の入口付近に行動変容を促すためのポスターを掲示します。また、オリエンテーション及び授業については、3つの密（密閉、密集、密接）を回避するため、①教室の換気をおこない、授業時間は短時間とする。②授業の内容等も、例えば、短時間の授業＋レポートの活用や、出来るものは遠隔授業を実施するなどの工夫が行えないかと考えています。

これが第二点です。

- また、私は、危機が終わっても、元の体制に戻る、とは考えておりません。これまでとは違う教育のしかたを考え、工夫し、新しい体制をみなさんと一緒に作っていかねばならないと考えております。

今後、早急に副学長を中心に学部の意見を聞きながら、具体的に詰めて頂きます。

特に遠隔授業は、学術情報メディアセンター、事務局そして総合管理学部の情報系の教員が協力し、本格的な遠隔授業システムを早急に、全学的に構築して頂きたいと思います。

また、7月には大学院入試（外国人特別選抜等）があります。大学のグローバル化を進めるためにも、スカイプ等を活用して入試ができないか、関係委員会で至急検討をお願いします。

これが第三点です。

- 新型コロナウイルス感染症は、いつ終わるか誰にも分かりません。私は少なくとも1年間は続く、そのあとも元に戻ることはない、ニュー・ノーマル

になる、新しい平時が始まると考えています。状況は刻一刻と変化しています。我々は緊張感を持って、長期的にこの危機に対処しなければならないと考えています。

個人的な意見は多々あるでしょうが、大学一丸となって今回の危機に対処することが最も重要です。それが本学をもっと強い大学、将来、本学の卒業生が「熊本県立大学に行ってよかった」と思う、そういう県民の皆さんの期待に応えられる大学になると思います。よろしくお願いします。